

## 「The Best in Heritage 2022」年縞博物館 プレゼンテーション概要

第2回日本博物館協会賞の受賞理由（学術的・国際的に価値ある長年にわたる研究、地域活性化への貢献、デザイン性に優れた展示）や博物館の魅力について紹介

【プレゼンター】 中川 毅 年縞博物館研究マネージャー  
（立命館大学古気候学研究センター長・教授）

### <概要>

- ・年縞博物館は、ただ一つの湖と、その湖底の泥に焦点を当てた博物館。
- ・1991年に年縞が見つかり、その後20年、国際チームが必死に研究し、メートル法における原器に相当するものを作った。
- ・それが地質学における標準の年代スケールであり、2012年に年代を測る国際標準に採用された。
- ・博物館はモノを展示するだけの場所ではなく、研究をするところでもある。
- ・これら年縞の研究成果は展示に還元され、科学研究と博物館展示の美しい相乗効果を生み出している。
- ・来館者からの評価は高く、Google 評価の星の数は、国内トップレベルで、ヴェルサイユ宮殿に並ぶ。
- ・科学の力と美しさは人々に伝わると自信を持つことができた。
- ・展示を解説するナビゲーターが常駐し、展示の背景にあるストーリーを来館者に伝えている。展示品は「ただの泥」だが、目の前の展示とストーリーが繋がることで、来館者にとって新たな魅力を生んでいる。
- ・ストーリーを伝えるのに、デザインも重要。年縞博物館のシンプルな展示デザインには見る者を圧倒する修道院のような美しさがあり、また来館者に自然の美しさと多様性を伝える。
- ・毎年共同開催の特別展では、隣接する縄文博物館は考古学（人文科学）を、年縞博物館は自然科学を担当し、役割を分担して成功を収めている。両館を合わせて見ることで、研究の全容（掘削・分析・研究成果）を見ることができる。